

私、同級会に気持ちよく行けるんです

同和問題を自らの問題として考える

【学習のねらい】

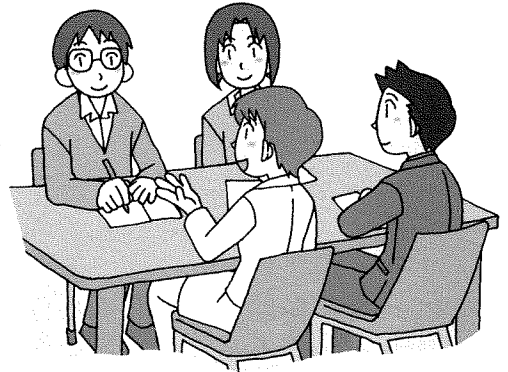
学校で人権同和教育が行われていなかった時代に育ったAさんが、クラスに被差別部落出身者がいたことを成人してから知り、「あのころ差別しなくてよかった。同級会に気持ちよく行けるんです」と語る資料をもとに、誰もが住みよい社会づくりのため自らどう関わるのかを考え合う。

【準備】

資料「私、同級会に気持ちよく行けるんです」

【進め方】

- (1) 資料を配付して、ファシリテーターが読む。
- (2) 資料をもとに感じたことや、それぞれの同和問題との出会いや、小中学校時代の同和問題に関わる体験を語り合う。
- (3) 全体に話し合われた内容を発表し合う。
- (4) ファシリテーターが全体の意見をもとに、学習の振り返りを行い、まとめをする。



【資料を扱う要点】

Aさんの言動をすべて否定するのではなく、この資料をもとに今一步深く考え合う。そして、互いの人権が守られた、誰もが住みよい地域社会（職場）づくりをしていくために、自分自身がどう関わるのかという視点で話し合う。

- (1) 小中学校時代の被差別部落出身の友だちは、その当時どんな思いでいたのか。また、現在どんな思いで暮らしているのかに思いを馳せた時、自分は気持ちよく同級会に行けるのか、そして友だちは気持ちよく参加できるのか。
- (2) 差別的なことを言わないことだけで、住みよい社会づくりができるのか。
- (3) 同和問題を正しく知ることの必要性

【資料】

「私、同級会に気持ちよく行けるんです」

ある職場で仲間数人で昼食をとっている時、同和問題が話題となり、Aさんが語りました。

私、よかったなあと思うんです。私は、同和教育を受けずに育ったんですが、大人になってから、小中学校時代、クラスメイトに何人か被差別部落出身の友だちがいたことを知ったんです。でも、両親は差別的なことを言わなかったもので、私はその友だちの出身について知らないままでした。ですから、私は差別的なことを言ったり、やったりはしませんでした。両親に感謝しています。よかったなあと思うんです。だから私、気持ちよく同級会に行けるんです。

※関連資料：「Aくんと私」 （「わたし」と「あなた」そして「みんな」の人権：長野県教育委員会）